

町立三春病院ニュース



●●『第13回 さくら湖マラソン大会』に参加しました！●●

新緑が目に見える初夏の季節、健康増進と体力向上を目的に毎年開催される三春町の恒例行事、「さくら湖マラソン大会」に参加しました。

ランナーや家族、そして関係者の健康管理のサポートを目的として、今年も「救護ブース」を設置し、多くの方々が参加前後に血圧測定や体調相談に訪れました。



たくさんの方が訪れた「救護ブース」

また、1,600名を超える参加者に交じり、三春病院および星総合病院、星ヶ丘病院の看護師など18名がランナーとして出場、さくら湖周辺の美しい三春路を走りぬけ、全員が完走を果たしました。

三春町民みなさんがいつも元気でいられるよう、三春病院は今後も「縁の下」で活躍していきたいと考えています。

今回参加した状況をスナップに収めましたので、ご紹介します。



ゴール目前！苦しいけど頑張れ！

○○ さくら湖マラソン大会のようす ○○



まだ、まだ余裕のVサイン



チームカラー「さくら色」でTシャツを揃えました。(写真では分かりにくいですが...)

かつさい教授の 家庭医療だより



三春町のみなさん、お元気ですか。★7月になりました。私ごとですが、今月は誕生月なので私もまたひとつ歳をとります。一方で、2度の大病をして自分の死が見える経験をしたのも24年前と4年前の7月初めなので、7月を迎えると複雑な気持ちになります。どうしても、生と死について考えることが多くなります。死んでいたかもしれない自分と、生かされている今の自分のイメージがどのように重なっているか時に迷うことがあります。村上春樹さんの小説「1Q84」の第3巻を読了してからはなおさらです。読んでない人にはわかりませんね。すみません(笑)。★一般に、死について考えることは忌み嫌われることが多いでしょう。「縁起でもない」と。でも、どのような死を迎えたいかという願いは、どのように生きていきたいかという希望につながるものです。ある人の死後、誰がその人についてどのような記憶を持っていくのかは、その人がどこでどのように生き・働き、どのような人間関係を持っていたかに関連するはず。★今、重い病気で毎日辛い思いをしているひとが、「家族に囲まれて逝きたい」とつぶやきます。これも、どのような死を迎えたいかの切実な希望です。たとえ残された時間が短くても人は望みを持つことができます。家庭医はその希望をかなえる調整をしていきます。★たとえ今死に至る病にかかっていない人でも、どのような死を迎えたいかについて、(明るくポジティブに！)考えてみてもいいのではないのでしょうか。そして、その願いから翻って、今の生き方や人間関係について(明るくポジティブに！)調整ができれば素晴らしいことです。家庭医としてより身近なところでは、そうした願いが生活習慣病をはじめとする病気の予防につながってほしいと期待しています。元気に良い夏を過ごして下さい！

【福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部 教授 葛西龍樹】